

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立古志幼稚園）

分 野	評価項目	評価の着眼点	自 己 評 価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評 価	評 価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・教育目標やサブテーマから目指す幼児像を「こしのこども」と掲げ、職員だけでなく園児・保護者・地域の方にも共通理解を図り、園児の活動の振返りに活かし自己肯定感を高めた。また、学級経営案や月計画から期ごとに保育の評価（達成度）をし、次期の改善策を明確に示しながら学級経営にあたっている。 ・古志地域の「ひと・もの・こと・自然」環境を生かした教育を特色として、直接体験から得た事を様々な保育活動や学びにつなぐ学級経営を行っている。 ・一人一人を大切にしたい細やかな保育をする中で個々が活躍する場がたくさんある事を行事で保護者に公開したり学級懇談やクラス通信で共通理解し合った。	4	4	・教育目標や園経営が学級経営や指導計画に具現化できるように、職員間で期の節目に共通理解を図り、保育・指導・評価（達成や課題）を明確にする。 ・地域と関わる特色を生かした活動を園児の興味関心に即した環境の構成に配慮したり、見通しをもった計画や事後の反省や課題を基にして、今後の取り組みに生かしていくよう努める。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達 の姿から課題を捉えて保育を行っ ているか。	・各職員が一人一人を観察する中で気付いた事や些細な変化について常に話題にし、実態把握や解決策を探ったり、効果的な援助について努めてきた。 ・園内研究や「子どもを語る会」を通して、期ごとの個々の成長や学びにつな がる姿を話し合う中で、多面的に個々の発達を捉えることが出来た。	4	4	・一人一人の観察記録から実態把握や発達段階について共通理解をし、課題を見極め、 全職員がそれぞれの役割で適切な援助が出来るよう努めていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実 態や課題を明確にし、計画的・組 織的に指導を行っているか。	・気になる幼児や支援が必要な園児について、特に担任・ヘルパー・補助教諭 間で常に情報交換をし、具体的な支援についてその都度話し合い、子どもの見 方に偏りが無いよう意識して対応したり連携を取り合ったりした。 ・専門機関（療育施設）への見学や現場の指導法から、よりよい支援について 学ぶことができ、個の成長につなぐことが出来た。特に就学に向けては市教委 や巡回相談での内容等保護者にも報告し、連携を密にして支援につなげた。	4	4	・支援を要する園児については、特に入園時から行動歴や些細な変化も見逃さず情報収 集をし、専門機関への相談に役立てていく。 ・専門的な助言を保育に活かすよう援助の仕方を全職員で話し合い、長期的な視点でふ さわしい援助に努める。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨 き、幼児に人権意識の芽生えを培 うように配慮しているか。	・目指す幼児像「こしのこども」を観点にして職員・保護者が「元気っ木カ ード」に記入し、掲示することにより、一人一人の良さや頑張りを知らせ、自信 をもたせ自己肯定感を育てる。 ・「サケの生態」について親子で講話を聴き、命のつながりや自然を守る研修 を行ったり教職員は多文化共生社会での多様性や外国籍児支援について学んだ	3	4	・何気なく使っている言葉の意味を見つめ直し、園児や保護者に対して、否定的な見方に つながらないように自身を振り返りながら、意識の向上を図る。 ・一人一人が大切にされている事が実感できる丁寧な関わりと信頼関係を築いていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促 す機会と捉え、工夫、改善してい るか。	・コロナウィルス感染防止対策に配慮しながら、運動会では地域の方との競技 やさくらんぼサロン交流では高齢者の方との触れ合い遊びを再開することが出 来、世代間交流につながった。 ・各行事が日常の活動と運動していくよう、見通しをもった保育構想と学年ご とのねらいを明確にし、園児が主体的に取り組むような援助や環境の構成を工 夫した。	4	4	・本園は、保護者（両親）や祖父母の行事への全面参加が可能であり、協力的である。今 後も世代間交流や親子参加行事を工夫しながら特色を活かしていく。 ・大きな行事への準備や片付けは、職員だけでは時間や労力がかかるため、保護者の自 主的参加を集めていきたい。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密に し、なめらかな接続に努めている か。	・校区内の保幼小学校間は、定期的に管理職会や担当者会を行い情報交換をする中で、 交流の持ち方や職員間の連携を図った。 ・「5年生とのほかほか交流」は一学期と二学期の2回、園に訪問してもらい一緒に遊び を通して触れ合うことが出来、全身で喜びを表していた。特に2回目は園庭で集団遊び を思い切り楽しみ、より親近感が増した。 ・幼稚園交流では、2月に年長と年中児が神門幼稚園に出向き、合同保育を通して仲良 くなっってかわりを広げたり、同じ小学校へ行くことを楽しみに待ったりできるよう に、職員間で連携して取り組んだ。	4	4	・5園1校の保幼小連携教育（園長校長会・担当者会・5年生交流・授業見学会）を 継続 していき、滑らかな接続に向けて今後も連携を取り合っていく。 ・就学児の発達や育ちについて、幼小間の伝達をスムーズに行うために、担当者間だけで なく、その時々にも園長・校長間でも話題にして、より連携を密にしていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域 （未就園児等）との協力関係はで きているか。	・毎月の保育公開、給食試食会、保護者研修会、各行事等人数を考慮しながら すべて参加してもらえた。公開日の様子を「アンケート」や「元気っ木カード 」に記載してもらい、我が子の感想や感動を把握した。発表会では活躍する姿か ら我が子だけでなく友達成長も認め、共感し合うことが出来て本園の良さを 実感することができた。 ・未就園児学級の全実施、地域関係者の方の行事や専門講師としての参加等 様々な支援を受け、豊かな体験や情操教育につながった。 ・『中堅教諭賞賞向上』と『体力向上指導者』研修の受講職員に併せて、2回 の研究保 育と研修発表に向けて職員研修を行い、職員間での共通理解を図っ た。 ・昨年度の課題から、更に研究内容を追求し「科学を愛する心を育てる」ソ ニー論文に 応募をし「保育の質の向上」「幼児の学び」「指導の在り方」に ついて研鑽を深めた	4	4	・個人懇談2回、学級懇談、連絡ノートでの情報交換の他に、毎日の降園時の話し合いや 園庭開放での保護者同士のつながりを大切にしながら、細やかな対応と信頼関係の構築 に努める。 ・地域の関係者には、幼稚園見学、行事への参加等特色ある古志幼稚園教育を理解し てもらい、新事業『長時間預かり』の状況説明に併せて、入園児数を増やすために連携を 取り合う。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研 究・研修の機会を自己研鑽の場と して受け止め、進んで研究・研修 に取り組んでいるか。	・当初、園務分掌にて職員の役割分担をし、年間指導計画、月行事計画を基に 1ヶ月前には担当が行事の起案をして職員会に図っている。職員会では、昨年 度の反省、課題、改善点について、十分な話し合いを行い、決定事案は、全職 員が各々の役割を把握して、実践をした。 ・特に今年度転入職員は、必要に応じて相談をし、園務が滞らないように心が けたり、周囲も気軽に話し合える雰囲気づくりに努めた。	4	4	・教育目標や目指す幼児像から研究テーマや取り組みを見直し、より明確な内容と方法に ついて、検討する。 ・限られた職員体制ではあるが、研究会や研修会など、積極的に参加すると共に職員会 で伝達し、皆が学び合う機会をもつ。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計 画的に園務を遂行しているか。	・当初、園務分掌にて職員の役割分担をし、年間指導計画、月行事計画を基に 1ヶ月前には担当が行事の起案をして職員会に図っている。職員会では、昨年 度の反省、課題、改善点について、十分な話し合いを行い、決定事案は、全職 員が各々の役割を把握して、実践をした。 ・特に今年度転入職員は、必要に応じて相談をし、園務が滞らないように心が けたり、周囲も気軽に話し合える雰囲気づくりに努めた。	4	4	・感染症対策を講じながら安心・安全な園務の遂行をするために、ひと月前には行事の起 案と綿密な打ち合わせを行い、全職員が役割を把握するとともに、変化にも臨機応変に対 応できるように細やかに連絡を取り合って進めていく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛 生の管理体制を全教職員が理解 し、適切な対応に努めているか。	・危機管理マニュアルの見直し、学期毎に通報火災、地震、洪水、不審者対応 を計画し、避難訓練を実施し、園児には避難の振返りからルール確認をした。 ・うがい手洗いマスク着用の日常化、共有する机、玩具、手洗い場、トイレ、 扉、保育室等の細目な掃除や消毒に努めた。 ・駐車場移転に伴い、冬場の天候や交通量に伴う園児の安全な登降園を保障す る困難さを痛感し、模索している。	3	3	・コロナ感染症対策については、衛生面、生活習慣等市の方針に基づき、段階的に通常 生活に戻すよう改善していく。 ・様々な感染症予防や衛生面等生活習慣確立に向け細やかな指導に努める。 ・季節毎の厳しい気象状況による歩行困難への対応策や、交通量の多い歩道での安全な 歩き方訓練等、保護者や関係者と協議実施する。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等 の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備 を定期的に点検し、必要な改善・ 管理を行っているか。	・毎月安全点検を行い、施設設備の腐敗や破損については、施設課に報告し、 修繕業者に連絡をする等迅速に対応している。 ・遊具については、毎年専門業者による安全点検を行い安全性を確認した。 ・築山の赤土が剥がれコンクリート面が表出し、職員が赤土を盛って処置をし た。 施設課や業者には報告しているが、修繕については連絡待ちである。	4	4	・毎月の園舎内外の定期点検の他に平素から保育活動中に見つけた施設設備の破損や 危険箇所等担任や管理職に知らせ早急な対応・処理に心掛けた。 ・築山補修は、料金に応じて今年度末か来年度早々に修繕予定である。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する